

# 和歌山県立博物館年報（令和6年度）

## 0. 概括

令和6年度は、春の特別展「紀州東照宮の宝刀」と、長期（約10か月）にわたる世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」（全5期）、また2本の企画展をおこなった。展示内容については、特別展・企画展ともに地域の文化財を積極的に取り上げ、地域に根ざした博物館・展覧会活動を心がけ、実践することができた。年間の総入館者数は44,218人で、令和5年度比で152%、令和4年度比178%、令和3年度比130%、令和2年度比231%となっている。新館開館してから30年のなかでも、過去4番目に多い入館者数となった。

資料収集・保存活動は、寄贈・購入により6件332点の資料が館藏品となり、また142件482点の寄託を受け、収蔵資料が増加した。特別展での展示を機に、寄贈・寄託になったものもあり、展示活動が資料収集にもつながるといった好循環が生まれている。

教育普及事業は、県教育委員会総務課の事業である「近代美術館・県立博物館の活用促進事業」もあり、教育機関による来館は64団体、2,211人の利用があり（そのうち31団体1,219人が上記事業利用）、昨年度比で件数は140%、人数は200%となり、大幅な増加となった。インターンシップ（職場体験）受け入れの件数は10件、出前授業は4件で、およそコロナ禍前の水準まで回復した。本年度は、例年とは異なる会期で特別展を長期にわたって開催していた関係もあり、現地見学会やワークショップなどを開催することはできなかったが、特別展に関わる講演会・講座は13回開催し、例年より多くのイベントを行うことができた。

調査研究は、引き続き各学芸員が講演会・学会報告のほか、論文などとして成果の公表をした。科学研究費の取得・分担参加など、他機関との共同研究を進め、また外部資金の獲得も進められている。それらの調査成果や、他機関と共同で行っている研究活動において、シンポジウムや研究紀要等での報告を通じて、成果還元を図ることができた。

なお、文化庁補助金 Innovate MUSEUM 事業として、「みんなでつくる、ふれる、つながる文化財の複製」が採択された（2,015千円）。

## 1. 資料収集・管理

### ①資料収集

当館では、「和歌山県立博物館資料収集基本方針等」に基づいて、購入・寄贈・寄託により、資料の収集を行っている。

#### (1)購入資料

館藏品番号	種別	名 称	作 者	員 数
1205	絵画	道成寺縁起		2 巻
1206	絵画	和歌浦図屏風		6 曲 1 双
1207	彫刻	天部形立像		1 軀
1208	歴史資料	紀伊藩士江川市兵衛家伝来資料		316 点

計4件321点（総額7,142,700円）

#### (2)寄贈資料

館藏品番号	種別	名 称	作 者	員 数
1203	歴史資料	秋月敏宏氏所蔵戦時中資料		10 点
1204	古文書	御入峯図		1 巻

2人の方から計2件11点の寄贈を受けた。

(3)資料の寄託

令和6年度は、7人の所有者から142件482点の資料が新たに寄託された（県指定有形民俗文化財1件5点を含む）。一方、4人の所有者に対し8件26点の返却をおこなった。また寄託者1人より1件1点の資料を購入し、寄託品が館蔵品となった。

②資料保存

(1)総合的虫菌害管理（IPM）

ガスくん蒸と虫菌害・保存環境の調査を組み合わせたIPMの手法を、継続して実施した。

(ア)虫害調査（調査ポイント100箇所：年4回調査、11箇所：年8回調査）

(イ)搬入資料くん（くん蒸庫くん蒸2回：7月30日～8月1日、10月2日～4日、被覆くん蒸1回：1月23日～26日）、使用ガス（商品名）：エキヒュームS

(ウ)展示室・搬入口等くん蒸（1回：7月16日）使用ガス（商品名）：ブンガノン

(エ)空気環境調査（精密調査1回：アンモニア・酢酸・蟻酸 収蔵庫各室・展示ケースなど8箇所：6月17日、簡易調査2回：アンモニア・酸 収蔵庫各室・展示ケースなど13箇所：①9月21日～25日、②3月7日～11日）

(オ)空中浮遊菌調査（エアースンプラー多孔板衝突法、15箇所：1月14日）

(2)収蔵品（館蔵品・寄託品）の点検・管理

逐次、現品と台帳を照合のうえ把握・管理を行っている。

(3)収蔵品（館蔵品・寄託品）管理データベース（I.B.MUSEUM）への移行と運用

令和4年度末より調書データ・画像データ等の整理を行い、従前のデータベースからデータを移行したうえで、収蔵品管理データベース（I.B.MUSEUM）の運用を始めた。

(4)館蔵品の修理

館蔵品7件9点の修復をおこなった。

(ア)静御前図 川合小梅筆 1幅【館172】 全面改修（表具仕立）、収納箱新調

(イ)祇園南海書巻 祇園南海筆 1巻【館902】 全面改修（卷子仕立）、収納箱新調

(ウ)十一面観音及び両脇侍像 1幅【館1022】 全面改修（表具仕立）、太巻芯付・収納箱新調

(エ)和歌浦図巻 野際蔡真筆 1幅【館1064】 一部改修（卷子仕立）

(オ)淡彩山水図（倪瓚詩意） 野呂介石筆 1幅【館1089】 一部改修（卷子仕立）

(カ)南海詩稿 祇園南海筆 1幅【館1087番】 全面改修（表具仕立）

(キ)熊野権現縁起絵巻 3巻【館1110番】 一部改修（卷子仕立）、収納箱新調

和歌山県立博物館収蔵品（寄託品・館蔵品）集計表

（令和7年3月31日現在）

種別	寄託品合計		館蔵品合計	
	件数	点数	件数	点数
絵画	650	352	352	547
彫刻	233	8	8	17
工芸	911	301	301	745
書跡	284	135	135	257
典籍	152	103	103	2,012
古文書	144	103	103	8,952
歴史資料	373	116	116	12,796
考古資料	237	13	13	662
民俗資料	56	6	6	76
複製・模型	7	71	71	286
建造物	3	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	3,050	1,208	1,208	26,350

\* 件数はI.B.Mmuseumの登録件数（指定の件数とは異なる）

③資料管理

(1)収蔵件数・点数（令和7年3月31日現在）

(ア)館蔵品：計1,208件26,350点

（うち県指定文化財4件4点）

(イ)寄託品：計3,050件（I.B.MUSEUM登録の件数）

国宝 2件221点

重要文化財〔附指定・重要無形民俗文化財含む〕

43件215点

県指定文化財〔附指定含む〕

61件944点

市町村指定文化財

46件1,274点

※預り証と指定の種別は異なる場合がある。

(2)台帳・データベース

(ア)館藏品：館藏品台帳・館藏品カード及びエクセル形式のデータベースで管理

(イ)寄託品：寄託品台帳・預かり証書控及び収藏品管理データベース（I.B.MUSEUM）で管理

(ウ)図書資料：エクセル形式のデータベース及びそれを出力した受入年度別台帳で管理

④資料の活用

(1)資料の貸出

文化財の展示をするにあたって、設備・人員（学芸員等の専門職員）が整備されている施設に貸出を行っている。

番号	名称(所蔵者・館藏品番号)	員数	貸出先・会期・企画名
1	□大般若経 巻第一(龍谷寺蔵)	1帖	かつらぎ町役場(令和6年7月4日～同年10月8日)、庁舎内展示 Vol.15「仏がみちびく三谷坂」
2	銅鐸レプリカ(高山寺蔵)	1点	和歌山県立紀伊風土記の丘(令和6年7月13日～同年9月8日)、夏期企画展「和歌山フェイクアワードー考古学におけるフェイクの世界ー」
3	石製品レプリカ(高山寺蔵)	1点	(同上)
4	牛馬童子像レプリカ(館443)	1点	(同上)
5	和歌山城大手門扉古材(館126)	1点	わかやま歴史館(令和6年7月24日～同年9月2日)、企画展示「和歌山城の門」
6	団扇(岩瀬広隆原画)のうち 邦安社御祭礼車楽之図(館484)	1枚	(同上)
7	銅製経筒(館1160)	1口	和歌山市立博物館(令和6年10月5日～同年11月24日)、特別展「聖武天皇と紀伊国」
8	仏説宝星陀羅尼経本事品第二(神護寺卿)(館545)	1巻	(同上)
9	平城京跡出土木簡レプリカ(館320)	1点	(同上)
10	海獣葡萄鏡(淡島神社蔵)	1面	(同上)
11	冬景山水図屏風 岡本緑邨筆(館965)	6曲 1隻	田辺市立美術館(令和6年10月5日～11月24日)、特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」
12	松林山水図 筑紫翠雲筆(館627)	1幅	(同上)
13	山水画卷 古田咏処筆(館840)	1巻	(同上)
14	秋景山水図 長阪雲在筆(館106)	1幅	(同上)
15	那智三瀑図 野呂介石筆(館135)	1幅	和歌山県立近代美術館(令和6年10月5日～11月24日)、特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」
16	臨介石熊野図巻 山田介堂筆(個人蔵)	1巻	田辺市立熊野古道なかへち美術館(令和6年10月5日～11月24日)、特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」
17	脇指 銘「紀州入鹿實綱」(館217)	1口	三重県総合博物館(令和6年10月5日～同年12月1日)、特別展「刀剣 三重の刀とその刀工」
18	紀州本・川中島合戦図屏風(館622)	6曲 1双	長野県立歴史館(令和6年10月12日～同年11月24日)、秋季企画展「描かれた川中島合戦～屏風・錦絵にみる戦の世界～」
19	紀伊国名所図会 初編巻六下・第三編巻一	2冊	岩出市民俗資料館(令和6年10月16日～同年12月9日)、秋季企画展「江戸時代の岩出ー紀伊藩との関係を中心にー」
20	◎草堂寺障壁画のうち 紙本墨画雪梅図 円山応挙筆(草堂寺蔵)	1面	大和文華館(令和6年10月19日～同年11月24日)、特別展「呉春一画を究め、芸に遊ぶー」
21	紀州歴代藩主叙任口宣案・宣旨・位記のうち 徳川治宝叙従一位口宣案(館178)	1点	わかやま歴史館(令和6年10月29日～12月9日)、企画展示「紀州藩主の別邸」
22	偕楽園焼 白釉州浜香合(館575)	1合	茶道資料館(令和7年1月7日～同年3月30日)、新春展「やきもの巡り③ 和歌山・奈良・三重編」
23	偕楽園焼 交趾釉月梅図皿(館175)	1対	(同上)
24	偕楽園焼 白釉巖雪写茶碗(館572)	1口	(同上)
25	南紀男山焼 染付桃形置物(館45)	1合	(同上)

番号	名称(所蔵者・館蔵品番号)	員数	貸出先・会期・企画名
26	南紀男山焼 交趾写二彩獅子形屏風挟(館532)	1対	(同上)
27	瑞芝焼 青磁鳳文獅子鈕香炉(館96)	1基	(同上)
28	瑞芝焼 青磁瑞雲文硯(館191)	1面	(同上)
29	瑞芝焼 青磁寿字文墨床(館529)	1基	(同上)
30	瑞芝焼 青磁葡萄唐草文筆筒(館530)	1口	(同上)
31	清寧軒焼 赤楽結文形香合 銘「玉章」(館520)	1合	(同上)
32	清寧軒焼 黒楽茶入 銘「瑞穂」(館579)	1口	(同上)
33	清寧軒焼 黒楽茶碗 銘「妹嶋夕照」(館577)	1口	(同上)
34	清寧軒焼 赤楽茶碗 銘「福祿寿」(館580)	1口	(同上)
35	太田焼 鉄釉釣花生(館388)	1口	(同上)
36	●木造 家津御子大神坐像(熊野速玉大社蔵)	1軀	大阪市立美術館(令和7年4月26日～同年6月15日)、特別展「日本国宝展」
37	●古神宝類のうち 裃 萌黄小葵浮線稜丸文二重織(熊野速玉大社蔵)	1領	(同上)
38	●古神宝類のうち 唐着衣 緯白小葵文浮織(伊号)(熊野速玉大社蔵)	1領	(同上)
39	●古神宝類のうち 衾 黄地浮線稜丸文唐織(呂号)(熊野速玉大社蔵)	1領	(同上)

合計 14 機関：39 件 43 点（和歌山県内 9 機関、県外 5 機関）  
（●は国宝、◎は重要文化財、○は県指定文化財、□は市町村指定文化財を表す）

## (2) 図書資料の収集

購入と寄贈によって、図書の収集を行っている。

令和 6 年度収集図書（データ入力・配架分）：762 点

購入図書：0 点（ただし科学研究費補助金によって 34 点購入した）

## (3) データの公開

館蔵品リスト及び学習室で利用できる図書リストを、当館ホームページで公開している。

令和 5 年度より、和歌山県の文化遺産の魅力を国内外に発信する土台を整えるため、県立博物館・県立近代美術館・県立紀伊風土記の丘の 3 館が所蔵する資料をデータベース化し、収蔵品の横断検索が可能なポータルサイト「和歌山ミュージアムコレクション」(<https://wakayama.museum>) を開設し、公開した（博物館デジタル化計画事業（令和 4～6 年度）の一環）。事業は完了し、HP も更新した。

25 件の高精細撮影を実施し、令和 4～6 年度分あわせて 42 件 56 点の画像を公開した。

令和 6 年 10 月 16 日（水）博物館資料のデジタル・アーカイブ化に関する勉強会を開催した。

## 2. 調査・研究

### ① 調査

#### (1) 館外調査件数

館の活動のため、及び県民・市町村からの依頼により、県内外の文化財調査を行っている。

館外調査活動（展覧会関連・資料購入・依頼など）：121 件

本年度・次年度特別展・企画展関連資料の調査のほか、市町村や文化財所有者からの依頼調査などを実施した。

主要なもの：特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」関連（県内・京都府・三重県・滋賀県など）、特別展「仏像のプロフィール」関連（広川町）、特別展「紀伊徳川家の威風」関連（田辺市・山梨県・静岡県など）：55件

## (2)学芸員の研究テーマ

(ア)坂本 亮太（学芸課長）

- ・ 紀州の中世荘園・村落に関する調査研究
- ・ 紀州の中世・近世寺社参詣に関する調査研究

(イ)島田 和（学芸員）

- ・ 県内の仏像・神像の図像・造形に関する調査研究
- ・ 県内の肖像画および肖像彫刻に関する基礎的調査研究

(ウ)竹中 康彦（学芸員）

- ・ 県内の大般若経の研究
- ・ 紀州東照宮奉納刀剣類の研究

(エ)佐藤 顕（学芸員）

- ・ 紀伊藩主に関する調査研究
- ・ 紀伊藩の宗教政策に関する調査研究

(オ)袴田 舞（学芸員）

- ・ 紀州三大文人画に関する調査研究
- ・ 紀州ゆかりの近世絵画に関する調査研究

(カ)前田 正明（学芸員）

- ・ 高野山寺領に関する調査研究
- ・ 紀伊藩領内における大庄屋文書の調査研究

(キ)原田 直輝（学芸員）〔臨時的任用〕

- ・ 紀州三大窯および紀州ゆかりの陶磁器に関する調査研究
- ・ 紀州ゆかりの工芸品に関する調査研究

## (3)共同研究

(ア)吉野櫻本坊所蔵大般若経の調査（東京大学史料編纂所一般共同研究）2回（奈良県）担当：坂本

(イ)荘園絵図の調査（東京大学史料編纂所特定共同研究）1回（鹿児島県）担当：坂本

(ウ)元興寺文化財研究所 共同研究「仏教民俗資料の発展的研究」2回（奈良県）担当：坂本

(エ)高野山大学密教文化研究所との合同調査（北室院）8回 担当：島田・前田・原田

## ②活用・学術的公表

(1)『和歌山県立博物館研究紀要』第31号の発行（3月31日発行、A4判、105ページ、500部）

研究 近世における貴顕の熊野参詣とその変容

—聖護院門跡と遊行上人を中心に—

佐藤 顕

「熊野新宮神宝図」について

—成立過程と写本の展開に関する検討—

原田 直輝

研究ノート 紀伊藩主の熊野巡見

前田 正明

南葵文庫蔵書のゆくえ

竹中 康彦

調査報告 高野山北室院の文化財について（2024年度調査報告）

島田 和・原田 直輝

前田 正明・御船 達雄

森本 一彦

和歌山県立博物館年報（令和5年度）

## (2)学芸員の研究成果

### (ア)坂本 亮太

- (論文)・「熊野における中世石造物研究の現状と課題」(『和歌山地方史研究』88号、2024年12月)
- (報告)・「中世・近世における熊野参詣と渡河」(第50回交通史研究会大会・和歌山地方史研究会第154回例会、2024年5月11日(土)、於:和歌山市勤労者総合センター6階文化ホール)
- ・「中世高野山麓におけるおこないと牛玉宝印」(和歌山地方史研究会第155回例会、2025年2月16日(日)、於:和歌山県立博物館2階学習室)
- (そのほか)・「聖地・熊野へのいざない—熊野那智参詣曼荼羅を読む—」(『わかやまの子どもと教育』92号(2024夏)、2024年6月)
- ・「大会報告要旨 共通論題 中世・近世における熊野参詣と渡河」(『交通史研究』105号、2024年9月)
- ・「講演録 熊野と高虎」(『第13回 高虎サミット in 熊野 事業報告書』高虎サミット in 熊野実行委員会、2025年3月)

### (イ)島田 和

- (解説執筆)・『特別展 旅する仏像—時空を越えて—』(一般社団法人芸術文化継承機構、2025年3月)
- (報告)・「地方博物館の事例「和歌山の仏像調査」」(美術史学会西支部大会「仏像調査最前線」、2025年3月8日(土)、於:大阪市立美術館)
- (そのほか)・「高野山に坐す神仏と祖師」(『わかやまの子どもと教育』93号(2024秋)、2025年9月)

### (ウ)竹中 康彦

- (論文)・「小川八幡神社所蔵の大般若経の成立と構成」小川八幡神社大般若経研究プロジェクト編『小川八幡神社大般若経調査概報2022-2023 各論篇(東京大学史料編纂所研究成果報告2024-4)』(東京大学史料編纂所、2025年3月)

### (エ)佐藤 顕

- (論文)・「近世の寺社参詣研究の展望」(『日本史研究』742号、2024年6月)
- ・「近世における葛城修験の展開と『葛嶺雑記』の成立背景—紀伊国を中心に—」(『紀州経済史文化史研究所紀要』第45号、2024年12月)
- (報告)・「近世における葛城修験の展開と『葛嶺雑記』の成立背景」(第50回交通史学会大会・和歌山地方史研究会第154回例会、2024年5月11日(土)、於:和歌山市勤労者総合センター6階文化ホール)
- (そのほか)・「大会報告要旨 自由論題 近世における葛城修験の展開と『葛嶺雑記』の成立背景」(『交通史研究』105号、2024年9月)
- ・「陸奥宗光と天満屋事件」(『龍馬タイムズ』149号、東京龍馬会、2024年夏)

### (オ)前田 正明

- (報告)・「紀伊藩主の熊野巡見」(紀州藩研究会、2024年7月11日(木)、於:フォルテワジマ6階ミーティングルームB)
- ・「県史跡文覚井一ノ井の「いま」—令和5年6月台風2号の被害とその後—」(和歌山地方史研究会第156回例会、2024年11月24日(日)、於:和歌山県立博物館2階学習室)

### (カ)原田 直輝

- (そのほか)・「熊野速玉大社の古神宝類」(『わかやまの子どもと教育』94号(2024冬)、2024年12月)
- ・「“写”—紀州のやきものを巡るまなざし—」(『陶説』858号、2025年3月)

## ③科学研究費補助金等

- (1)令和6年度科学研究費助成事業に3件採択(うち2件は継続、1件は新規)

- ・若手研究 (B) (一般)「江戸時代中期における「真景」の一様相—桑山玉洲を中心に—」(研究代表者: 袴田舞、令和6年度～令和9年度、3,770千円(総額))
- ・研究活動スタート支援(スタートアップ)「『互御影』様弘法大師像の諸作例に関する基礎的研究」(研究代表者: 島田和、令和4年度～令和6年度、780千円(総額))
- ・研究活動スタート支援(スタートアップ)「近世における熊野三山の変容過程に関する基礎的研究」(研究代表者: 佐藤顕、令和6～7年度、1,820千円(総額))

(2)令和6年度科学研究費助成事業の分担者として参画

- ・基盤研究 (B)「伝来情報の分析による絵巻を中心とした古代・中世やまと絵の復元的研究」(研究代表者: 土屋貴裕(東京国立博物館)、令和6年度～令和10年度、18,590千円(総額)、研究分担者: 島田和)
- ・基盤研究 (B)「江戸時代の和歌山の画家における彩色材料と絵画表現に関する研究」(研究代表者: 安永拓世(成城大学)、令和5年度～令和9年度、16,250千円(総額)、研究分担者: 袴田舞・原田直輝)
- ・基盤研究 (B)「中世制作 寺社縁起類の領域横断的研究—形態・様式・機能・表現からの分析と目録作成—」(研究代表者: 大橋直義(実践女子大学)、令和6年度～令和9年度、18,460千円(総額)、研究分担者: 坂本亮太)

### 3. 展示

#### ①常設展

「きのくにの歩み—人々の生活と文化—」(4月2日(火)～9月29日(日)、12月7日(土)～3月30日(日)、計249日間)

(※特別展「紀州東照宮の宝刀」および特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」第Ⅰ期・第Ⅱ期・第Ⅳ期・第Ⅴ期の会期中は併催、特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」第Ⅲ期の会期中は閉室。)

(1)特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」第Ⅲ期展示開催のために、展示資料の全面撤去・復元作業を行い、展示資料・展示器具・映像装置の保守点検を行った。あわせて、展示資料の一部変更(近世)、展示室ガラス清掃作業を行った。

#### ②特別展・企画展

特別展は、和歌山県の各地域の歴史や文化財をテーマとして、文化財所蔵者や市町村教育委員会などと連携し、準備期間を長く設け、各地から展示資料を借用して開催するものである。また、ポスター・チラシを制作・発送して十分に広報を行うとともに、展示資料・関連資料を掲載して、調査研究の成果をまとめた展覧会図録を発行した。

企画展は、館藏品や寄託品を中心にテーマを設定して、おもに企画展示室で展示を行うものである(常設展と併催)。

展示ごとに音声ガイドのサービスを行い、5回分の制作・運用をおこなった(貸出件数1100件)

(※展示資料の●は国宝、◎は重要文化財、○は県指定文化財(県指定民俗文化財を含む)、□は市町村指定文化財を表す)

#### (0)企画展「新収蔵品展 2024」

[会 期] 2月23日(金・祝)～4月14日(日) (12日間、令和6年度内)

[展 示 点 数] 37件55点

[入 館 者 数] 911人(4月1日～、令和6年度内)〈一日平均75.9人〉

(1)特別展「紀州東照宮の宝刀」

- [会 期] 4月27日(土)～6月2日(日) (32日間)  
[主 催] 和歌山県立博物館  
[展 示 点 数] 38件 140点(重要文化財13件13点、和歌山県指定文化財13件13点)  
[概 要] 江戸時代の初め、元和7年(1621)に紀伊徳川家初代藩主・頼宣(1602～71)が和歌浦に建立した紀州東照宮には、近代の当主を含め、大半の紀伊徳川家の歴代藩主が、名だたる名刀を必ず奉納している。この特別展では、紀伊徳川家の歴代藩主・当主らが紀州東照宮へ奉納した刀剣すべてを、新たな知見により再調査し、その成果に基づいて、華麗な糸巻太刀拵や太刀金具類、刀剣類の管理・保存に関する江戸時代～近代の古文書・古記録などととも一堂に展示。



- [成果と課題] 近年関心の高い刀剣にかかる展覧会で、多くの入館者数があった。内容としては、紀州東照宮奉納刀類のデータ・画像の整理を進め、その成果を展示で示すとともに、データベース構築のための基礎資料を作ることができたのは大きな成果である。展示においては、「あなたの推し太刀」といった来館者参加型の取り組みも実施することができた。広報とその効果測定の方法などについては若干の課題を残した。

[主な展示資料]

- ◎太刀 銘 安綱 附 糸巻太刀拵 1口(紀州東照宮蔵)
- ◎太刀 銘 国時 1口(紀州東照宮蔵)
- ◎太刀 銘 左近将監景依 正応二年十一月日 附 糸巻太刀拵 1口(紀州東照宮蔵)
- ◎太刀 銘 来国俊 1口(紀州東照宮蔵)
- ◎刀 銘 長曾禰興里入道虎徹 1口(紀州東照宮蔵)
- ◎太刀 銘 真長 附 糸巻太刀拵 1口(紀州東照宮蔵)

- [入 館 者 数] 7,363人(一日平均230.1人)

(2)世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」

- [会 期] 令和6年6月15日(土)～令和7年3月9日(日) (185日間)  
[主 催] 和歌山県立博物館  
[概 要] ユネスコ世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」は平成6年(1994)に登録され、令和6年(2024)には20周年の節目の年を迎えた。この特別展では「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界文化遺産登録20周年を記念して、展示期間を全5期にわけ、熊野・高野の名宝を、各期テーマを変えて展示し、年間を通じて、世界遺産「紀伊山地の霊場」の名宝の数々を紹介。

- [成果と課題] 全部で五つの期間・テーマに分けた異例の特別展として注目を集め、熊野三山・高野山といった世界遺産の構成資産を十分に展示することができ、また多くの入館者が得られたことは大きな成果である。ただし、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ期の展示は、企画展示室での特別展であり、若干物足りないという意見が寄せられ、展示規模と広報のあり方などについては検討の余地を残した。展示の内容としては、これまでの当館による調査成果と新規調

査成果を組み合わせて行い、博物館としても、また来館者の満足度も高いものとなった。また友の会の協力を得て、会期(5回)にわたるスタンプラリーを開催した。図録が会期中に完売したのもあり、予算の確保、印刷部数の設定については課題を残した。また、全体的に広報が不十分であり、上半期の入館者数は伸び悩み、また講座等の参加者も少なかった点には大きな課題を残した。事務・庶務作業は混乱なく進行することができた。

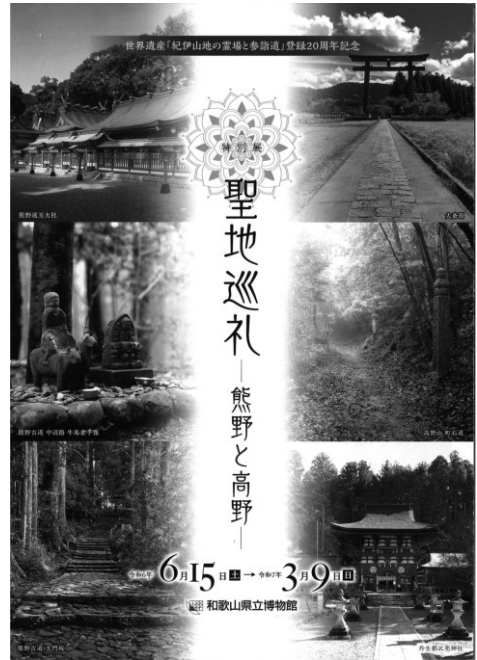
[総入館者数(第Ⅰ～Ⅴ期)] 32,385人〈一日平均175.1人〉

第Ⅰ期「那智山・那智瀧の神仏—熊野那智大社と青岸渡寺—」

[会 期] 6月15日(土)～7月21日(日) 32日間

[概 要] 熊野三山のうち、現在もなお唯一神仏習合の景観を留めている那智山(熊野那智大社と青岸渡寺)。そして、その信仰の象徴・源泉とも見られる那智瀧。熊野那智山に顕れた神仏、そこで執り行われる祭礼、信仰を広めた御師の活動などを通じて、熊野信仰の成り立ちと広がりについて展示。

[成果と課題] 熊野那智大社と青岸渡寺の文化財のうち、絵画・彫刻・工芸・古文書など多種多様な文化財を紹介し、那智山の歴史と信仰を十分に紹介することができた。特に熊野十二所権現古神像の展示は当館では15年ぶりで、来館者の眼をひくものとなった。熊野那智大社・青岸渡寺が所蔵する役行者像等を新たに調査し、図録に掲載できたことは成果である。全体的に広報が不十分であり、博物館講座等の参加者はやや少なく、課題を残した。



[主な展示資料]

- ◎金銀装宝剣拵 後藤琢乗作 附銅鍍金銀箱 1具・1合(熊野那智大社蔵)
- ◎熊野那智大社文書 巻2 1巻(熊野那智大社蔵)
- ◎大日如来坐像 1軀(青岸渡寺蔵)
- ◎熊野十二所権現古神像 15軀(熊野那智大社蔵)
- ◎熊野本地仏曼荼羅 1幅(熊野那智大社蔵)

[入館者数] 4,429人〈一日平均138.4人〉

第Ⅱ期「神仏・祖師の住まう山—高野山上・山麓の宗教文化—」

[会 期] 前期：8月3日(土)～8月25日(日)／後期：8月31日(土)～9月29日(日) 50日間

[概 要] 高野山は真言密教の聖地であり、祖師・弘法大師空海が祀られるとともに、地主神丹生明神も祀られ、神仏が共存する山として位置する。聖地・高野山の複雑で豊饒な信仰と宗教文化を紹介し、あわせて高野山の影響なども受けながら育まれた、高野山麓に広がる豊かな宗教文化も取り上げた。

[成果と課題] 丹生都比売神社の文化財を交点に、前期では高野山上の名宝を中心に、後期では寄託品をもとに高野山麓での信仰・祭礼など、山麓への影響を紹介。特に丹生惣神主家文書(丹生都比売神社蔵)・西国三十三度順礼結願納札(慈尊院蔵)・五大力菩薩像(北

室院) など、新規に調査のうえ展示したものもあり、これまでの当館の調査・研究活動の成果を存分に示すことができた。前期・後期の展示替えが1週間とタイトであり、準備作業などの点で課題が残った。また第I期と同様、広報が不十分で、来館者数はやや少なかった。

[主な展示資料]

- ◎大日如来坐像 (旧勸学院本尊像) 1 軀 (金剛峯寺蔵)
- ◎獅子・狛犬 1 対 (丹生都比売神社蔵)
- ◎五大力菩薩像 1 幅 (北室院蔵)
- ◎薄紅地薔薇反橋文様水干 (舞楽装束類のうち) 1 領 (金剛峯寺蔵)
- 猿楽面 4 面 (八坂神社蔵)
- 天部形立像 1 軀 (大福寺蔵)

[入館者数] 6,903人〈一日平均138.1人〉

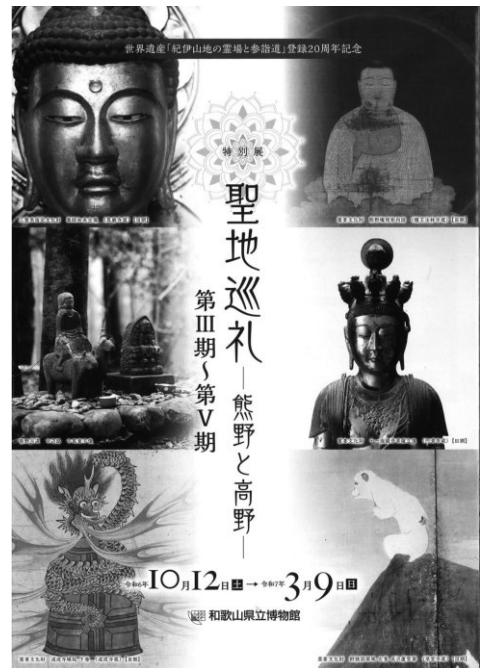
第Ⅲ期「人・道・祈り—紀伊路・伊勢路・大辺路をゆく—」

[会 期] 10月12日(土)～11月24日(日) 38日間

[概要] 聖地・熊野へ至る道沿いにも様々な霊地・霊場があり、参詣者はそれらの寺社にも立ち寄りながら旅をしていた。熊野参詣も西国三十三所観音巡礼や伊勢参詣などとも重なり合いながら、その歴史や文化が育まれてきた。紀伊路・大辺路・伊勢路など紀伊半島に展開する沿道の文化財とともに、紀伊半島を舞台に複雑に交錯する信仰と参詣の文化を紹介。

[成果と課題] 和歌山県内、紀伊半島など地元に残る文化財の展示を主として、紀伊路・大辺路・伊勢路といった沿道の文化財を紹介。特にこれまで調査を行ったものの、未だ紹介できていなかった文化財を積極的に取り上げた

ところが特徴で、なかでも三重県域(主に熊野市・尾鷲市)については展示にあわせて新規に調査をおこない、三重県内の寺社、行政担当者、研究者などとも新たな交流も生まれたのは大きな成果である。そのほか今まで借用のうえ展示をすることができていなかった、国立館が収蔵する熊野信仰の重要作例を展示することができた。広報が不十分で、入館者・講座等の参加者が想定を下回った。輸送や展示替えにおいて、業者の確保などに若干の課題が残った。



[主な展示資料]

- ◎道成寺縁起 2 巻 (道成寺蔵)
- ◎薬師如来坐像 1 軀 (真巖寺蔵)
- ◎群猿図屏風 長沢蘆雪筆 6 曲 1 双 (草堂寺蔵)
- ◎熊野本地仏曼荼羅 1 幅 (聖護院蔵)
- ◎阿弥陀如来立像及び像内納入品 1 軀・4 巻 (善教寺蔵)
- ◎法燈国師像 一山一寧筆 覚慧筆 1 幅 (興国寺蔵)

[入館者数] 6,367人〈一日平均167.6人〉

#### 第Ⅳ期「熊野信仰の美と荘厳—熊野速玉大社の神像と古神宝—」

[会 期] 12月7日(土)～1月19日(日) 33日間

[概 要] 聖地・熊野に祀られる荘厳な神々。また熊野の神々に対する信仰によって奉納された宝物の数々。これらは熊野への篤い信仰を象徴的に物語る。熊野速玉大社が誇る神像と古神宝を中心に、熊野信仰のなかで生み出された荘厳かつ美しい宝物類の数々を展示。

[成果と課題] 古神宝の修理事業、神像・古神宝を中心とした文化財保護の歩みなどについても紹介したところに新たな成果があった。NHKの日曜美術館で放映されたこともあり、放送後は入館者数が大幅に増加した。国宝・工芸品を中心とした展示であり、展示室の照度を落として展示したため、暗く見づらいといった意見が少なからずあった。また、コーナー展示(常設展示室で開催)においても、特別展と同様、熊野速玉大社の国宝古神宝類を展示したが、来館者の誘導を十分におこなうことができなかった。図録が会期中に完売し、印刷部数の設定には検討が必要であった。

[主な展示資料]

- 熊野速玉大神坐像 1 軀 (熊野速玉大社蔵)
- 夫須美大神坐像 1 軀 (熊野速玉大社蔵)
- 古神宝類のうち 桐唐草蒔絵手箱および内容品 1 具 (熊野速玉大社蔵)
- 古神宝類のうち 裃 萌黄小葵文固綾 1 領 (熊野速玉大社蔵)
- 彩絵檜扇 1 握 (熊野速玉大社蔵)

[入 館 者 数] 9,453 人 (一日平均 286.5 人)

#### 第Ⅴ期「蘇りの地・熊野—熊野本宮大社・湯峯と熊野川—」

[会 期] 2月1日(土)～3月9日(日) 32日間

[概 要] 熊野三山の一つ熊野本宮大社は、もとは熊野川の中洲に鎮座しており、雄大な河川による恵みと猛威の歴史とともに歩んできた。熊野本宮大社の歴史と名宝を、山岳修験の「擬死再生」「蘇り」という視点で取り上げ、あわせて湯峯地区や熊野川に関わる文化財についても紹介。

[成果と課題] 熊野本宮大社における復興の歩み、本宮と熊野川との関わりなどをキーワードに、熊野本宮大社や湯峯地区に残された文化財を中心に、その歴史と文化を紹介。絵画・彫刻・工芸・古文書など多種多様な文化財を紹介し、なかでも熊野本宮大社の獅子・狛犬、少林寺の地藏菩薩坐像など新たに紹介することができた。そのほか、館蔵の熊野御幸図写の原本が見出されたこともあり、速報的に急遽展示に組み入れ、二つを並べて展示できたことも大きな成果である。第Ⅳ期の余波もあり、入館者数は概ね好調であった。

[主な展示資料]

- 熊野本地仏曼荼羅 1 幅 (熊野本宮大社蔵)
- 神額 1 面 (熊野本宮大社蔵)
- 不動明王坐像及び二童子立像 3 軀 (東光寺蔵)
- 地藏菩薩坐像 1 軀 (少林寺蔵)
- 熊野御幸図 2 幅 (個人蔵)

[入 館 者 数] 5,233 人 (一日平均 163.5 人)

#### (3)企画展「“写” —紀州のやきものを巡るまなざし—」

[会 期] 2月23日(金・祝)～4月14日(日) (14日間、令和6年度内)

[展示点数] 45件61点

[概要] 江戸時代、主に19世紀の紀州ゆかりの多様なやきもの(陶磁器)について、何かを「写す」という営みに注目して、その歴史的・美術的な展開を紹介。やきものをテーマとした展示は、当館では約7年ぶりとなる。

[入館者数] 1,240人(～3月31日まで、令和6年度内)〈一日平均88.1人〉

#### (4)刊行した展覧会図録

##### (ア)『特別展 紀州東照宮の宝刀』

(令和6年4月27日発行、A4判、80頁、1,600部、販売分1,100部、価格1,300円)

##### (イ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」 第Ⅰ期「那智山・那智瀧の神仏—熊野那智大社と青岸渡寺—』

(令和6年6月15日発行、A4判34頁、1,000部、販売分500部、価格700円)

##### (ウ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」 第Ⅱ期「神仏・祖師の住まう山—高野山上・山麓の宗教文化—』

(令和6年8月3日発行、A4判50頁、1,000部、販売分500部、価格1,000円)

##### (エ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」 第Ⅲ期「人・道・祈り—紀伊路・伊勢路・大辺路をゆく—』

(令和6年10月12日発行、A4判148頁、1,200部、販売分600部、価格1,600円)

##### (オ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」 第Ⅳ期「熊野信仰の美と荘厳—熊速玉大社の神像と古神宝—』

(令和6年12月7日発行、A4判34頁、1,000部、販売分500部、価格700円)

##### (カ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」 第Ⅴ期「蘇りの地・熊野—熊野本宮大社・湯峯と熊野川—』

(令和7年2月1日発行、A4判34頁、1,000部、販売分500部、価格700円)

#### (5)その他

(ア)「ひとこと解説」キャプション、釈文、関連地図などを特別展・企画展ごとに制作

(イ)音声ガイドを、特別展ごとに自主制作・運用(6本制作、利用件数1,100件)

### ③館内小展示

#### (1)ロビー展(1階エントランスホール)

・「さわって学ぶわかやまの歴史—さわれるレプリカとさわって読む図録—」

[会期] 4月1日(金)～3月30日(日) 1階エントランスホール

[概要] 常設でエントランスホールにおいて「さわれるレプリカ」「さわって読む図録」を紹介。

・「みんなでつくる文化財レプリカ」

[会期] 12月7日(土)～3月30日(日)

[概要] 文化庁補助金(Innovate MUSEUM事業)で実施した、熊野速玉大社神像のレプリカ作成にかかわる工程を映像で紹介するとともに、神像のレプリカを展示。

#### (2)スポット展示(2階文化財情報コーナーによる展示)

・「きのくに色絵の世界—中国陶磁にあこがれて—」

[会期] 7月13日(土)～8月10日(土)

[概要] 中国陶磁の影響を受けた館蔵の陶磁器を紹介。

・「実習生の“推しコレ”三選—和歌山県立博物館の館蔵品より—」

[会 期] 8月12日(月祝)～9月29日(日)

[概 要] 令和6年度、和歌山県立博物館で学芸員の資格を取得するため実習を行った大学生3人による展示。

・「南画ってなあに？」

[会 期] 11月2日(土)～11月24日(日)

[概 要] 県立近代美術館ほかで開催された「仙境—南画の聖地、ここにあり—」と連携した文人画の展示。

(3)コーナー展示(常設展示室の一部(高野山と熊野三山コーナー、熊野詣コーナー)で実施)

特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」と連動するかたちで、熊野三山・高野山に関連した館蔵品・収蔵品の展示をおこなった。

・「聖地・那智山を描く」

[会 期] 6月15日(土)～7月21日(日)

[展 示 点 数] 14件14点

・「弘法大師・空海と高野山の開創」

[会 期] 8月3日(土)～8月30日(金)

[展 示 点 数] 12件23点

・「学問の山・高野山」

[会 期] 8月31日(土)～9月29日(日)

[展 示 点 数] 13件19点

・「熊野速玉大社と古神宝」

[会 期] 12月7日(土)～1月19日(日)

[展 示 点 数] 7件17点

・「熊野本宮大社の歴史と景観」

[会 期] 2月1日(土)～3月9日(日)

[展 示 点 数] 10件16点

(4)そのほか(館外 展示協力)

熊野速玉大社神宝館の展示「特別公開 熊野速玉大社の檜扇」(7/6～8/18)において、寄託品の一時返却、展示作業等の協力をおこなった。

#### ④入館者の傾向

アンケート用紙を入館者に配布して、アンケート調査(4つの観点から満足度を尋ねる形式)を実施した(通年回答数1,899通、回答率7.1%)。

[詳細は別掲]

知識の充足感：大変満足 45.1%・満足 45.3%・普通 13.3%・不満 0.3%・大変不満 0.1%・無回答 2.2%

展示資料： 大変満足 51.2%・満足 38.7%・普通 13.7%・不満 0.5%・大変不満 0.1%・無回答 2.3%

展示手法： 大変満足 41.6%・満足 41.9%・普通 11.5%・不満 2.6%・大変不満 0.1%・無回答 3.3%

施設快適性： 大変満足 44.2%・満足 40.3%・普通 10.8%・不満 1.2%・大変不満 0.3%・無回答 3.2%

居住地： 和歌山県内 49.9%・大阪府 22.7%・その他 27.3%

(和歌山市 64.7%・伊都 4.2%・那賀 8.9%・海草 5.6%・有田 4.2%・日高 6.1%・西牟婁 3.4%・東牟婁 1.1%)

認知手段： インターネット 26.6%・ポスター 13.8%・テレビ・ラジオ 12.2%・活字媒体 12.0%・チラシ 10.2%・通りがかり 8.2%・友人・知人 6.5% など

[総評]

概ね例年通りの傾向だが、年間を通じて特別展を開催した関係もあり、いずれの項目においても満足度

が若干上昇した。居住地は、県外の割合が増加した点（50%以上）に本年度の特徴がある。また認知手段として、チラシとテレビ・ラジオが大幅に増加した。年間を通じた特別展を開催した関係で、チラシでの来館が増えたこと、またNHKの日曜美術館での放映がきっかけとなり来館した人が多かったことなどが要因として考えられる。通りがかりの割合が減り、チラシやテレビでの情報入手が増えたことは、展覧会（特別展）を目当てに来館したことのあらわれと評価できるだろう。なお、アンケートでは認知手段として割合が低下しているインターネットも、ホームページの閲覧件数は昨年度に比べ大幅に増加しており、インターネットでの広報も一定の効果があったものと思われる。

#### ⑤展覧会別入館者数内訳

展示会名	展示日数	一般		大学生		高齢者	障害者	留学生	小中高生	幼児	その他	合計				
		有料											無料			
		個人	団体	個人	団体								個人	団体	個人	団体
常設展・企画展	74	701	283	52	53	897	107	0	338	51	2,255	4,347				
紀州東照宮の宝刀	32	1,432	410	51	28	1,306	200	2	488	69	3,377	7,363				
聖地巡礼一熊野と高野一	181	5,017	1,513	271	140	6,748	688	13	2,392	259	15,077	32,118				
合計	287	7,150	2,206	374	221	8,951	995	15	3,218	379	20,709	44,218				

(参考：30年度：36,452、元年度35,508、2年度19,033、3年度33,927、4年度24,677、5年度29,007)

(単位：人)

## 4. 教育普及

### ①学校・団体の利用

学校団体（留学生含む）の利用実績：64件 2,211人（団体としての利用、一般団体は含まず）

月 日	学校団体名	人数・目的
4月9日(火)	大阪芸術大学 工芸学科	44人／展示見学
○4月19日(金)	中貴志小学校(紀の川市)5年生	51人／展示見学
5月14日(火)	藤戸台小学校(和歌山市)	83人／展示見学
◎5月31日(金)	箕島小学校(有田市)5年生	47人／展示見学
5月31日(金)	東和中学校(和歌山市)	2人／展示見学
6月1日(土)	和歌山信愛中学校(和歌山市)	9人／展示見学
6月1日(土)	和歌山信愛高等学校(和歌山市)	2人／展示見学
6月9日(日)	ボーイスカウト那賀2団	7人／展示見学
◎6月11日(火)	出雲小学校(串本町)5・6年生	14人／展示見学
◎6月12日(水)	直川小学校(和歌山市)5年生	39人／展示見学
◎6月20日(木)	市ノ瀬小学校(上富田町)5・6年生	48人／展示見学
◎7月5日(金)	和田小学校(美浜町)5年生	26人／展示見学
7月5日(金)	楠見中学校(和歌山市)	82人／展示見学
7月17日(水)	精華学園高校和歌山校(和歌山市)	16人／展示見学
7月28日(日)	紀見東中学校(橋本市)	4人／展示見学
○7月30日(火)	仙溪学園(紀の川市)	5人／展示見学
8月2日(金)	有和中学校(有田市)	20人／展示見学
8月6日(火)	紀見東中学校(橋本市)2年生	2人／展示見学
○8月20日(火)	印南・稲原・切目・清流中学校(印南町)3年生	47人／展示見学
◎9月6日(金)	大坊小学校(田辺市)5・6年生	9人／展示見学
◎9月6日(金)	高池小学校(古座川町)5年生	11人／展示見学
○9月10日(火)	近畿大学 民俗学実習	48人／展示・施設見学
○9月11日(水)	和歌山信愛中学校(和歌山市)1年生	82人／展示見学
○9月12日(木)	和歌山大学 博物館学	37人／展示見学

月 日	学校団体名	人数・目的
◎ 9月13日(金)	松原小学校(美浜町)5年生	19人/展示見学
◎ 9月20日(金)	大谷小学校(かつらぎ町)5・6年生	17人/展示見学
○ 10月13日(日)	大阪芸術大学 美術史ゼミ	10人/展示見学
◎ 10月17日(木)	南野上小学校(海南市)1~6年生	17人/展示見学
10月18日(金)	明和中学校(和歌山市)	21人/展示見学
◎ 10月22日(火)	学文路小学校(橋本市)5・6年生	30人/展示見学
10月22日(火)	奈良大学 文化財学科 美術史ゼミ	22人/展示見学
◎ 10月23日(火)	田村・田栖川・山田小学校(湯浅町)5・6年生	31人/展示見学
◎ 10月24日(木)	県立和歌山ろう学校中学部(和歌山市)1~3年生	4人/展示見学
10月29日(火)	城東中学校(和歌山市)	37人/展示見学
10月29日(火)	河西中学校(和歌山市)	15人/展示見学
◎ 10月30日(水)	橋本小学校(橋本市)5年生	33人/展示見学
○ 10月30日(水)	田辺市中学校(田辺市)2年生	79人/展示・施設見学
◎ 10月31日(木)	清水小学校(橋本市)2~5年生	37人/展示見学
○ 11月10日(日)	きのくに青雲高校対通信制(和歌山市)2年生	15人/展示見学
○ 11月12日(火)	大阪大学 美術史ゼミ	8人/展示見学
11月13日(水)	慶風高校(和歌山市)	27人/展示見学
○ 11月15日(金)	西脇小学校(和歌山市)	48人/展示見学
◎ 11月19日(火)	田鶴小学校(有田市)6年生	24人/展示見学
◎ 11月20日(水)	宮北小学校(和歌山市)1年生	24人/展示見学
◎ 11月21日(木)	西和佐小学校(和歌山市)5年生	76人/展示見学
○ 11月22日(金)	箕島小学校(有田市)6年生	39人/展示見学
◎ 12月10日(火)	今福小学校(和歌山市)5年生	20人/展示見学
◎ 12月12日(木)	湯浅小学校(湯浅町)5年生	69人/展示見学
○ 12月17日(火)	三田小学校(和歌山市)	61人/展示見学
◎ 12月20日(金)	太田小学校(和歌山市)6年生	50人/展示見学
○ 12月21日(土)	京都外国語大学(京都市)	8人/展示見学
◎ 1月15日(水)	中之島小学校(和歌山市)6年生	37人/展示見学
◎ 1月15日(水)	和歌浦小学校(和歌山市)6年生	25人/展示見学
◎ 1月17日(金)	みはま支援学校(美浜町)1~3年生	8人/展示見学
◎ 2月4日(火)	宮北小学校(和歌山市)4年生	27人/展示見学
◎ 2月7日(金)	野崎西小学校(和歌山市)1~5年生	259人/展示見学
◎ 2月19日(水)	宮北小学校(和歌山市)3年生	29人/展示見学
◎ 2月21日(金)	巽小学校(海南市)6年生	64人/展示見学
◎ 2月28日(金)	小倉小学校(和歌山市)6年生	49人/展示見学
◎ 3月7日(金)	池田小学校(紀の川市)5年生	62人/展示見学
◎ 3月19日(水)	小川小学校(紀美野町)1~5年生	14人/展示見学

(○は学芸員の解説あり、◎は美術館・博物館活用促進事業)

小学校：35団体 1,520人 中学校：18団体 454人 高校：4団体 60人 大学：7団体 177人

※そのうち近代美術館・博物館活用促進事業：31件 1,219人

## ②講演会・博物館講座

### (1)特別展「紀州東照宮の宝刀」関連

博物館講座 (会場は県立博物館2階学習室)

5月6日(月祝) 竹中 康彦(当館学芸員)

「紀伊藩歴代藩主と紀州東照宮の奉納刀」(参加者 26 人)

5月26日(日) 竹中 康彦(当館学芸員)

「近代文化財制度と紀州東照宮の奉納刀」【事情により中止】

(2)特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」関連

講演会(会場は和歌山県立近代美術館2階ホール)

10月12日(土) 塚本 明氏(三重大学教授)

「江戸時代の熊野街道と貧しき旅人たち—伊勢路沿いの古文書史料から—」

(参加者 60 人)

博物館講座

(第Ⅰ期) 会場は県立近代美術館2階ホール

6月23日(日) 関根 俊一(当館館長)「那智経塚の遺宝」(参加者 28 人)

7月6日(土) 藤森 寛志氏(和歌山県教育庁文化遺産課主任)

「那智田楽へのいざない」(参加者 33 人)

(第Ⅱ期) 会場は県立近代美術館2階ホール

8月4日(日) 竹中 康彦(当館学芸員)「古代紀伊国の信仰と高野山の開創」(参加者 64 人)

9月7日(土) 前田 正明(当館学芸員)「木食応其と高野山」(参加者 48 人)

(第Ⅲ期) 会場は県立近代美術館2階ホール

10月27日(日) 袴田 舞(当館学芸員)「長沢蘆雪と紀南の寺院」(参加者 27 人)

11月9日(日) 佐藤 顕(当館学芸員)「江戸時代の熊野参詣と紀伊路」(参加者 34 人)

(第Ⅳ期) 会場は県立博物館2階学習室

12月14日(土) 原田 直輝(当館学芸員)「神宝の歴史と熊野速玉大社の古神宝」(参加者 34 人)

1月5日(日) 関根 俊一(当館館長)「新春!館長トーク」(参加者 92 人)

1月12日(日) 島田 和(当館学芸員)「神のすがた—熊野速玉大社御神像—」(参加者 96 人)

(第Ⅴ期) 会場は県立博物館2階学習室

2月8日(土) 丹野 拓氏(和歌山県世界遺産センター調査員)

「本宮周辺の古道と遺跡」(参加者 34 人)

2月23日(日) 蘇理 剛志氏(和歌山県立紀伊風土記の丘学芸員)

「熊野本宮大社の祭りと行事」(参加者 46 人)

③展示解説・体験学習・ワークショップ・見学会・関連行事等

ミュージアム・トーク(展覧会担当学芸員による展示解説)は、31回実施し、延べ699人(1回平均22.5人)の参加を得た。ワークショップ・体験学習などは実施していない。

④県民との協業

(1)ミュージアム・ボランティア

和歌山大学教育学部等の学生によるミュージアム・ボランティアを、引き続き実施した。登録した7人の学生が参加し、特別展音声ガイドの収録のほか、熊野速玉大社神像複製の着色作業・補佐に従事し、新宮市で開催された著色ワークショップに参加した。

(2)和歌山県立博物館友の会

会員数:86人(一般会員78人・賛助会員8人)

特別展・企画展の案内等を会員に送付。岡山幼稚園児と一般来館者による笹飾り(6/27)、七夕まつり(6/27~7/7)、会員向け学芸員体験(7/7)、わくわく子ども博物館学芸員体験(7/27)を開催した。

特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」に関連して、博物館と友の会とでスタンプラリーを行い、記念品(3回来館:缶バッジ、5回来館:クリアファイル)の作成をし、来場者に配布した。

(3)地域・学校と連携した事業



- ・ 明和中学校（10月16日～17日、2人）
- ・ 県立和歌山商業高校（11月6日～8日、2人）
- ・ 東中学校（11月14日～15日、2人）
- ・ 和歌山大学附属中学校（11月19日、1人）

合計：10校17人

(5)エキスパート職員派遣（県教委総務課）・出張まなび講座（県教委生涯学習課）など学校等への出前授業

- ・ 9月23日(月) 一般社団法人クリエイターズ：「和歌山の歴史—江戸時代の城下町和歌山—」〔佐藤〕
- ・ 9月26日(木) 有功東小学校（4年生）：「地域の先人たちのはたらき 大畑才蔵」〔前田〕
- ・ 11月1日(金) 根来小学校（4年生）：「根来・和歌山と工芸」〔原田〕
- ・ 2月26日(水) 古民家山崎邸：「文化財を触ってみよう」〔佐藤〕

合計：4団体

(6)教員研修

中堅教諭等資質向上研修（和歌山県教育センター学びの丘の選択研修に指定されている）

7月12日(金) 受講者：12名、12月10日(火)、受講者：12人（各回定員12人）〔竹中〕

(7)大学への出講（非常勤講師）

放送大学面接授業「博物館で学ぶきのくにの歴史」（令和6年12月11日・12日、於：当館）19人〔竹中〕

## 5. 広報・情報発信

①県民への直接的情報提供

和歌山県ゆかりの文化財に関するコンサルティング対応件数（電話・出張・来館など）：266件

②メディアへの情報発信

特別展・企画展の開催を中心に、メディアに情報発信を行い、取材を受けている。

報道機関への資料提供回数：13回（4月10日・6月7日・7月16日・7月26日・8月26日・8月28日・9月17日・10月9日・11月5日・12月2日・1月30日・2月6日・3月14日）

新聞・一般紙への掲載件数（展覧会・文化庁補助金事業関係）：129回

コラム記事（和歌山新報「和歌山県立博物館の文化財」）：49回

テレビ・ラジオ番組への出演・取材対応：18回（テレビ和歌山・和歌山放送・NHKなど） ※いずれも展覧会・文化財および文化庁補助金関係

「県民の友」掲載：12回

「わかやま探検ミュージアム」掲載：3回

「月刊住職」掲載：1回

そのほか、県観光課（観光連盟）などと連携した広報：紀州浪漫、和—なごみ—、和歌山県だより・エルマガジン「和歌山の本」などに掲載

③ホームページによる広報

特別展・企画展、イベントに関わる博物館ニュースはその都度随時更新

ホームページ閲覧者数（年間）：165,464人（※令和6年度：109,408人）

SNSによる広報：X（旧ツイッター）352回アップ、Facebook 39回アップ

主要ミュージアム検索サイトに、基本情報・展覧会情報等を適宜掲載・更新

④印刷物の制作・配布・発送

(1)刊行物

(ア)『和歌山県立博物館 研究紀要』第31号、500部制作

(イ)『特別展 紀州東照宮の宝刀』1600部制作、500部寄贈・発送

(ウ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼—熊野と高野—」第1期「那

智山・那智瀧の神仏―熊野那智大社と青岸渡寺―』1,000部制作、500部寄贈・発送

(エ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」第Ⅱ期「神仏・祖師の住まう山―高野山上・山麓の宗教文化―』1,000部制作、500部寄贈・発送

(オ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」第Ⅲ期「人・道・祈り―紀伊路・伊勢路・大辺路をゆく―』1,200部制作、600部寄贈・発送

(カ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」第Ⅳ期「熊野信仰の美と荘厳―熊速玉大社の神像と古神宝―』1,000部制作、500部寄贈・発送

(キ)『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」第Ⅴ期「蘇りの地・熊野―熊野本宮大社・湯峯と熊野川―』1,000部制作、500部寄贈・発送

## (2) 展覧会ポスター・チラシ

(ア)特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」(第Ⅲ～Ⅴ期)は、ポスター(カラー片面刷、B2判、1,200部)、チラシ(カラー両面刷、A3判2つ折、33,000部)を作成、配布(各1,056か所/2,751か所に発送)。

(イ)特別展「仏像のプロフィール わかやまうまれ、わかやまそだち」(令和7年度)は、ポスター(カラー片面刷、B2判、2,200部)、チラシ(カラー両面刷、A4判、40,000部)を作成、配布(各2,040か所/2,690か所に発送)

(ウ)企画展は、チラシ(単色両面刷、A4判)を作成、館内配布

## (3) そのほか普及広報物

(ア)教員向け案内(カラー両面刷、A4判、6,000部)を作成・発送(756か所に発送)

(イ)博物館だより29号(カラー両面刷、A3判2つ折、4,000部)、令和7年度年間カレンダー(カラー両面刷、A4判、30,000部)を作成、配布(各2,608か所/2,690か所に発送)。

(ウ)「けんぱく・こどもゼミ」参加者募集チラシ(裏面に特別展「聖地巡礼―熊野と高野―」第Ⅰ期・第Ⅱ期チラシを掲載、カラー両面刷、A4判、36,700部)を作成・発送(県内の小中学校177か所)

## ⑤ さまざまな広報手段

看板類の制作：特別展・企画展開催ごとに、市内3箇所の看板を更新(7回)

## ⑥ 協力活動

### (1) 県立博物館施設合同企画：

5月18日(土)に国際博物館の日記念行事として、県立近代美術館と和歌山県立博物館との合同で「たんけん！近代美術館・博物館」を実施した(参加者22名、予約申込制)。

10月27日(日)に開催された「風土記まつり」に、味村副館長・総務課小池が参加し、ブースを出店し、オリジナル缶バッジ販売などの活動をおこなった。

### (2) 収蔵写真資料(フィルム・デジタル画像)の外部への使用許可・貸出・提供

延べ71件(出版社・テレビ番組制作会社など)

### (3) 講演会等への講師派遣(12件)

(ア)坂本 亮太

・「南北朝時代の吉田地域」みーやちゃんと学ぶふるさと歴史講座第1回「御坊の不思議！吉田の地域はなぜ細長〜いの」、7月19日(金) 於：御坊市役所1階多目的ホール

・「藤堂高虎の紀州における足跡」高虎サミット in 熊野プレ講演会、9月15日(日) 於：熊野市文化交流センター1階多目的ルーム

・「熊野と高虎」高虎サミット in 熊野、10月18日(土) 於：熊野市文化交流センター1階交流ホール

・「中世の熊野参詣記を読む」有田市郷土資料館古文書講座、1月11日(土) 於：有田市文化福祉センター3階会議室

・「聖地巡礼と熊野詣」元興寺文化財研究所創立60周年記念共同研究公開講座「紀伊半島の霊場と参詣道」登録20周年記念「地域史のなかの霊場 熊野と吉野」、1月26日(土) 於：元興寺文化財研究

所総合文化財センター 3階研修室

- ・「室町～戦国時代の有田郡と畠山氏」いにしへの有田歴史講座（有田川町教育委員会）、3月29日（土）  
於：きびドーム 2階多目的研修室

(イ)佐藤 顕

- ・「江戸時代の高野参詣と橋本・慈尊院」橋本市社会福祉協議会いきいきシニアリーダーカレッジ紀北の魅力発見コース、8月27日（火）、於：橋本市保健福祉センター 3階多目的ホール
- ・「江戸時代における和歌の浦の変容」和歌山市立博物館特別展「聖武天皇と紀伊国」講演会、11月23日（土）、於：和歌山市立博物館 2階講義室
- ・「近世の熊野参詣記を読む」有田市郷土資料館古文書講座、1月25日（土）、於：有田市文化福祉センター 3階会議室
- ・「江戸時代の熊野・高野参詣」和歌山県世界遺産マスター全体説明会、3月2日（日）、於：世界遺産熊野本宮館多目的ホール
- ・「江戸時代の熊野・高野参詣」和歌山県世界遺産マスター全体説明会、3月8日（土）、於：高野町中央公民館会議室

(ウ)前田 正明

- ・「川とともに生きる一川と人・神社との関わりを中心に」和歌山県教育関係神職協議会研修会、8月2日（火）、於：和歌山県神社庁 2階会議室

(4)委員等の委嘱

(ア)坂本 亮太

東京大学史料編纂所共同研究拠点共同研究員、史跡安宅氏城館跡保存活用指導委員会委員（白浜町教育委員会）、新宮下本町遺跡保存活用計画策定委員会委員（新宮市教育委員会）、海南市文化財保護審議会委員（海南市教育委員会）、元興寺文化財研究所客員研究員、特別研究員等審査会専門委員・卓越研究員候補者選考委員会書面審査員・国際事業委員会書面審査員・書面評価員（日本学術振興会）

(イ)竹中 康彦

田辺市立美術館協議会委員、放送大学非常勤講師

(5)執筆依頼

「和歌山県立博物館の文化財」（『わかやま新報』コラム）49回〔竹中・坂本・島田・原田〕

「上人滝の水が消えた？」（『産経新聞 和歌山版』6月30日付（コラム「先人からのメッセージ 防災・減災・わかやま」）〔前田〕

(6)学習室の民間団体への貸出

8件

(7)収蔵資料の特別閲覧対応

30件（調査研究のため、借用・展示のための調査を含む、1日を1件としてカウント）

月 日	閲覧者	資 料	目 的
4月24日(水)	永田智世（根津美術館）	紀伊徳川家伝来貝類標本【館969】 1件	特別展「百草蒔絵葉巻と飯塚桃葉」にかかる資料調査
5月29日(水)	郷司泰仁（中之島香雪美術館）	紺紙金字法華一品経26巻および蒔絵経箱【廣八幡宮蔵】 1件5点	特別展「法華経絵巻と千年の祈り」にかかる資料調査
5月25日(土)	糸川風太（田辺市立美術館）ほか2人	冬景山水図屏風 岡本緑郵筆【館965】 ほか5件	特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」にかかる資料調査
6月19日(水)	古川周平（和歌山市和歌山城整備企画課）	和歌山城大手門扉古材【館126】 ほか2件	わかやま歴史館企画展示にかかる調査
6月30日(日)	近藤壮（学習院大学）	芝仙延年図 野呂介石筆【館16】 ほか5件	近世紀州画壇の調査研究
7月7日(日)	安永拓世（成城大学）	熊野垂迹神曼荼羅図（甲本）【館46】 ほか1件	調査研究
8月6日(火)	宇野瑞木（専修大学）	三船神社文書【三船神社蔵】	研究論文執筆

月 日	閲覧者	資 料	目 的
8月7日(水)	同上	同上	同上
8月8日(木)	同上	同上	同上
9月13日(金)	伊藤裕偉 (三重県教育委員会) ほか1人	紀伊国絵図【館 1154】                      ほか2件	三重県教育委員会による熊野古道にかか る調査研究
9月13日(金)	伊藤裕偉 (三重県教育委員会)	熊野本宮大社文書	調査研究
9月10日(火)	福井尚寿 (佐賀県立博物館) ほか1人	玉蜀黍・隠元豆図 伊藤若冲筆【草堂寺蔵】 ほか1件	特別展「売茶翁と若冲」にかか る資料調査
9月14日(土)	安永拓世 (成城大学) ほか2人	鷹図 真砂幽泉筆【個人蔵】                      ほか7件	科学研究費による調査研究
9月15日(日)	同上	同上	同上
9月16日(月祝)	同上	同上	同上
10月16日(水)	水上一夫	十一面観音立像【平見観音堂蔵】	修士論文執筆のため
10月31日(木)	玉置俊久	手取城推定復原模型【館 365】	展示にかか る事前確認
11月7日(木)	杉山純平 (和歌山市和歌山城整備企画課)	葵紋長持【館 1083】	養翠園所蔵葵紋長持との比較調査
11月19日(火)	栗林文夫 (鹿児島県歴史・美術センター黎明館)	乾武俊収集資料 (仮面・神像・歴史資料) 【館 1024】    1件5点	調査研究
12月12日(木)	伊藤裕久	西浜御殿之図【館 123】	泰山荘茶室・高風居 (徳川頼倫設 計) の調査研究
12月24日(火)	新井美那 (和歌山市立博物館)	和歌浦賦【館 133】                                      ほか1件	松尾塊亭による和歌浦に関する画 巻の比較研究
12月25日(水)	小口康仁 (学習院大学)	紀州本・川中島合戦図屏風【館 622】	戦国合戦図に関する調査研究
12月26日(木)	前田徹 (兵庫県立歴史博物館) ほか1人	紀州本・川中島合戦図屏風【館 622】	特別展「いくさ物語の絵画」にか かる資料調査
1月15日(水)	杉山純平 (和歌山市和歌山城整備企画課)	太刀銘「備前国」(以下不明伝真長) 【紀州東照宮蔵】                                      ほか2件	わかやま歴史館春企画展示にか かる資料調査
1月17日(金)	橋本遼太 (神奈川県立歴史博物館)	熊野御幸図【個人蔵】	社寺参詣曼荼羅諸作例の比較研究
2月23日(日)	駒走昭二 (神奈川大学)	漂流記【館 273】	江戸時代の漂流民に関する研究
2月27日(木)	東弘一    ほか2人	脇差 銘「紀州入鹿實綱」(附・拵) 1件2点	郷里の刀工の作品調査
3月19日(水)	安永拓世 (成城大学) ほか2人	耕織図屏風 真砂幽泉筆                                      ほか1件	科学研究費による調査研究
3月20日(木)	同上	同上	同上
3月21日(金)	同上	同上	同上

## (8)岡山幼稚園の展示

エントランス 七夕飾り (7月)

エントランス 絵画展示 (2月)

## (9)入館料無料開放日

「関西文化の日」(11月16日(土)・17日(日))

「ふるさと誕生日」(県民の日(11月22日(金)))

毎月第1日曜日(11月を除き実施)

## 6. 組織と運営

### ①組織・人員

#### (1)和歌山県・県教委による研修

人権研修(3月18日(火)・19日(水)、全職員対象)

島田学芸員が研修に参加(7月11日(木)・7月18日(木))

佐藤学芸員が初任者研修に参加(4月11日(木)・4月12日(金)・6月21日(金)・7月25日(木)・  
10月25日(金)・2月20日(木))

## (2)防災訓練

博物館による文化財防災対応マニュアルを検討。

火災時の役割分担周知のため、放送・避難誘導訓練を行った（2月19日）（近代美術館と合同）。

## (3)文化庁主催の研修への参加

文化庁が主催する指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー（第1年目）に島田学芸員が参加した（8月19～23日）。

公開承認施設会議（6月13日、2人）および国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会（6月14日、2人）に参加した（いずれも On-line 参加およびアーカイブ配信）。

文化財（美術工芸品）保存修理講習会（12月17日）をアーカイブ配信にて参加した（1人）。

## (4)その他

個人情報保護については、県の指針に従って実施した。

博物館法（昭和26年法律第285号）第11条の改正にともない、登録博物館の再登録申請をし（令和6年1月16日付、博第191号）、令和7年1月に承認された（令和7年3月21日付、文第1105号）。

## ②県民の期待に応える運営

### (1)博物館協議会（協議会委員14人）

当館の事業計画等について諮問

第1回（6月20日（木））：令和5年度事業報告、令和6年度事業計画、令和5年度博物館評価

第2回（11月14日（木））：令和6年度事業報告、令和7年度事業計画

### (2)博物館評価部会（評価委員5人） ※令和6年度 第2回協議で報告済み

評価様式により、全体及び8項目について館長・評価委員に所見を求めた。

6月：令和5年度事業評価・令和6年度評価様式についての意見聴取

8月：評価策定、教育長に報告（8月7日付、博第117号）

9月：教育長より通知（9月27日付、文総第280号）

### (3)美術資料選定委員会（選定委員5人）

2月14日（金）：購入予定資料の審査（収集方針との適合性、価格の妥当性について）5件322点

### (4)アンケート調査

各展覧会・イベントについて、その都度アンケート調査を行った。

### (5)博物館法改正にともなう登録博物館への再登録

令和7年3月21日付け文第1105号において、博物館法（第26年法律第285号）第11条の登録が承認された。登録年月日：令和7年3月7日

（令和6年1月16日付け博第191号にて申請）

## ③情報公開

### (1)博物館評価

「博物館の使命」（資料2）および「令和5年度博物館評価」の公開（当館ホームページ上）。

### (2)年報

「和歌山県立博物館年報」（令和5年度）の刊行（『研究紀要』第31号に収録）。

「和歌山県立博物館年報」のうち、平成26年度～令和5年度分についてホームページ上にて公開。

## 7. 施設・設備

### ①施設設備の維持点検

館内設備の日常的点検・整備

（空調機・電気設備・機械警備・消防設備・植栽・エレベーター・燻蒸庫・映像装置など）

### ②改修・修繕

(1)博物館のみにかかる修繕

トラックヤード、総務課・学芸課（いずれも事務スペース）の照明工事（LED化）  
一部、展示台・展示板のクロス貼り替え  
のぞき展示ケース（6台）の照明改修（LED化）  
常設展「きのくにの歩み」看板の改修

(2)今後の改修予定

EV工事（客用／職員用／荷物用） 令和8年1月～3月（全館休館）  
空調機改修工事（全館） 令和8年4月～7月（全館休館）

## 8. 財源

### ①予算の確保

(1)令和6年度当初予算

事業名	人件費	報償費	旅費	需用費	(印刷製本費)	(修繕料)	役務費	委託料	使用料	負担金	公課費	備品購入費	合計
管理運営	37,003	30	604	510	1,235	2,380	801	10,510	635	55	0	7,143	60,906
展覧会開催		184	158	2,041	2,054		175	2,964	65				7,641
デジタル化								2,538	473				3,011
紀州学研究会ネットワーク	3,849	404	591						123				4,967
特別展「聖地巡礼-熊野と高野-」		1,119	190	118	2,532		526	14,794	1,430				20,709
合計	40,852	1,737	1,543	2,669	5,821	2,380	1,502	30,806	2,726	55	0	7,143	97,234

(\* 需用費の額は、印刷製本費と修繕料を除く額を記した。)

(単位：千円)

(2)歳入

(ア)歳入額：当初予算 8,917 千円・決算額 12,276 千円

(イ)一般財源：当初予算 88,317 千円・決算額 80,716 千円（見込）

## 9. 文化庁補助事業

### ①「みんなでつくる、ふれる、つながる文化財の複製」(文化庁補助金 Innovate MUSEUM 事業、2,015 千円)

従来の「お身代わり仏像」のノウハウを活かし、熊野速玉大社の神像のレプリカを制作し、和歌山大学、和歌山工業高校、新宮市教育委員会の協力を得て、新宮市内（および三重県紀宝町）の小中学生を対象にワークショップを実施し、文化財の保存についての地域学習の機会とした。

3D 立体測定 / データ調整 / 3D 出力 (和歌山工業高校)、部分接合・着彩前表面調整 (当館職員・和歌山工業高校生徒)、着彩 (立体模写) (平野薫禮氏、ワークショップ参加者、和歌山大学教育学部学生 (学生ミュージアム・ボランティア) が補助)

10月27日(日) 熊野速玉大社にて著色ワークショップ

12月22日(日) 熊野速玉大社(新宮市)にて奉納奉告祭に参加

12月7日(土)～3月30日(日) 博物館エントランスにて、神像の複製および紹介の動画を公開

### 令和6年度 職員名簿 (\*印は近代美術館と兼務)

館長 関根 俊一 副館長 味村 泰幸 専門員 平林 照浩

紀州歴史学研究顧問 山東 良朗

[総務課]

総務課長 小池 哲  
 副主査 大西 佑亮\* 副主査 土谷 雅宏\* 副主査 堀川 純也\*  
 副主査 西山 真帆\*  
 主事 木地裕美子\* 事務補助 村上 順子 事務補助 岡本 美絵  
 [学芸課]  
 学芸課長 坂本 亮太 学芸員 袴田 舞 学芸員 島田 和  
 学芸員 佐藤 顕 学芸員 竹中 康彦 学芸員 前田 正明  
 学芸員 原田 直輝 事務補助 岡山 恵子

[会計年度任用職員]

受付業務員 岡崎五十鈴 清原 智佳 寺崎三保子 東口めぐみ  
 監視業務員 花光美佐子 松嶋麻衣子 村田 彩歌  
 業務補助職員 長尾 稔

令和6年度 和歌山県立博物館協議会委員名簿

(任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日、令和6年4月1日現在、敬称略、50音順)

氏名	役職名	専門分野	備考
岩間 香	摂南大学名誉教授	日本絵画史	美術資料選定委員、 評価部会委員
上田 さとみ	和歌山県教育委員会委員 湯浅町教育委員会 家庭教育支援リーダー ／ソーシャルワーカー	社会教育 家庭教育	
上野 顕	熊野速玉大社宮司	神道史	
大森 照龍	高野山霊宝館館長	博物館運営	評価部会委員
柏原 康文	(株)テレビ和歌山代表取締役会長	学識経験者	副会長
北野 美江	和歌山市立有功中学校校長	学校教育	
曾我部 大剛	高山寺住職	仏教史	美術資料選定委員
曾野 洋	四天王寺大学人文社会学部教授	教育史	
戸川 しをり	和歌山県立耐久高等学校校長	学校教育	
内藤 栄	大阪市立美術館館長	芸術学	美術資料選定委員、 評価部会委員
松尾 友絵	和歌山市立和歌浦小学校校長	学校教育	
藤本 清二郎	和歌山大学名誉教授	日本近世史	会長、美術資料選定委員、 評価部会委員
横内 裕人	京都府立大学文学部教授	日本中世宗教史	美術資料選定委員、 評価部会委員
吉田 幸子	和歌山県立ろう学校校長	学校教育	